

世界の 見方



世界初の人工衛星スプートニク1号の打ち上げで宇宙時代が幕を開けて60年超、人類は宇宙空間の探査と利用の面で目覚ましい進歩を遂げた。これは国際協力なくして成し得なかっただろう。宇宙空間を利用し、経済的・社会的な恩恵を受ける国や企業はますます増えており、安全や持続可能な利用を保証するため、これまで以上に国際的な協力が重要になっている。

国連宇宙部(UNOOSA)が主催する国連会議「UNISPACE+50」が18日からウィーンで始まり、各国の政府代表者や産業界の関係者が宇宙での活動について話し合う。最優先課題は、世界中の生活向上のため、我々の惑星・地球を守るための宇宙空間の利用方法を探ることだ。昨今、宇宙空間はビッグビジネスの場となっている。昨年の世界全体の宇宙分野における経済規模は推定3300

シモネッタ・ディピッポ

国連宇宙部長

宇宙の活用と国際協力

億ドル。宇宙へのアクセスは急速に拡大しつつあり、国連に加盟する70カ国以上の政府が宇宙機関を設置している。民間企業の宇宙分野への進出も加速しており、昨年1年間に打ち上げられた450以上の衛星のうち、半分弱が商業目的だった。

私たちはカーナビや国際電話など、日々の生活の中でさまざまな形で宇宙科学技術に依存している。宇宙は全世界で持続可能な開発を実現するためのかけがえのない手段であり、だからこそ、すべての人々が宇宙の恩恵を享受できることが重要なのだ。

UNISPACE+50は過去60年にわたる宇宙での成果を振り返り、未来について考える良い機会であり、会議では宇宙空間の平和利用や宇宙活動の世界規模のガバナンスに関し、より強力な国際協力を求める決議が承認される見通しだ。21世紀において宇宙は全ての人類にとって必要不可欠であり、だからこそ国際社会が宇宙活動の将来について共に取り組むことが重要なのだ。

(寄稿)

UNISPACE(ユニスペース)



宇宙空間の探査と平和利用に関する国連会議。1968年にウィーンで最初の会議が開かれ、その後、82年と99年の計

3回開催された。宇宙科学技術がどのように応用できるか検討し、国際協力や宇宙環境の保護について議論した。今月18〜21日に50周年記念会議「UNISPACE+50」が開催される。